

そこが知りたい! 調査ポイント



自慢

先輩たちから受け継がれてきた50年の歴史を誇る機関誌は、他校の鉄道研究部には見られないもの。実際に足を運んで撮影した写真や、個人研究など多彩な内容。

必須アイテム

模型づくりにカッターナイフと定規は必須。ナイフで傷つかないように、金属製の定規を使用。模型制作に必要な技術は中1の頃から上級生より伝授される。



目標

全国高等学校鉄道模型コンテストで賞を取る。2015年に理事長特別賞(3位に該当)をもらったのがこれまでの最高の結果なので、後輩たちにはそれを超えてほしい。



部活調査隊

あの日活に入りたい! 気になる部活調査隊

「中学校にはどんな部活があるんだろう?」そんな疑問に答えるため、いろいろな学校の名物部活をリサーチしてきました!

城北中学校・高等学校

鉄道研究部

設立 1966年に同好会として設立
部員数 69名
活動日 週3~4日
活動実績 機関誌の発行、鉄道模型コンテストへの参加、文化祭での大規模展示など。



メッセージ

好きなことがあるのはいいことです。胸を張って鉄道にのめり込んでほしいと思います。



顧問

伊藤和晃先生
山本毅先生

部員



部員で行程を決めて鉄道旅行に行くなど、自由度が高い活動が魅力です。

模型や文集の制作など

コンベンションにも参加しました」文化祭での展示は体育館を丸ごと使うほど規模が大きく、模型のほかにも電車運転シミュレーションや、スイッチ一つでさまざまな駅の発着音を鳴らせる装置、行き先表示の鉄製パネルや電光掲示板など、鉄道好きにはたまらないものばかりです。

「もう一つの活動の大きな柱が編集班による機関誌の編集で、50年の歴史を誇ります。内容も単に鉄道そのものだけでなく、町づくりや行政、駅舎の課題など、大人の目線も入った記事になっています。編集班で企画会議を行い、どの記事を誰が担当するか調整して制作しています」(上田くん)

鉄道好きのための活動が満載

2方向のアプローチで鉄道の魅力を伝える

鉄道研究部では、模型と機関誌制作が主な活動です。模型班では、「実在する駅舎や景色を忠実に再現している」と部長の上田照くんは言います。

「建物は材料を買って手づくりします。地面の砂などは市販品を利用することも。制作には1テーマにつき3~4か月ほどかかります」模型づくりの難しさについて聞いてみました。

「実際の線路に合わせてレールをカーブさせるのですが、電車の車輪が引っかけた前進できなくなることがあります。模型の電車は、レールに電気を通す実際の電車に近い形で動かす製品を使っています。何かの拍子に電車が止まると、その原因究明が大変ですね」(上田くん)

昨年の文化祭で展示された模型について、顧問の伊藤和晃先生は次のように評します。

「埼玉県北部を通る秩父鉄道の路線の一部を模したものでしたが、長瀬駅の辺りから三峰口駅の駅舎の再現性などはなかなかのもので、よくがんばったと思います。文化祭のほかには、東京ビッグサイトで行われる日本有数規模のコンテストである国際鉄道模型